

平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	環境対応車普及促進対策			<b>担当部局庁</b>	自動車局			<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成14年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	環境政策課			課長 西本 俊幸		
<b>会計区分</b>	一般会計									
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	-			<b>関係する計画、通知等</b>	日本再興戦略(平成28年6月2日閣議決定) 交通政策基本計画(平成27年2月13日閣議決定) 地球温暖化対策計画(平成28年5月13日閣議決定)					
<b>主要政策・施策</b>	地球温暖化対策			<b>主要経費</b>	その他の事項経費					
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	地球温暖化対策、大都市地域等における大気汚染対策等の観点から、トラック・バス・タクシー事業者を中心に、CNGトラック・バス、ハイブリッドトラック・バスの導入に対する支援を行うことにより、環境対応車の普及を促進する。									
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	トラック・バス・タクシー事業者を中心に、CNGトラック・バス等の導入に対して地方公共団体等と協調して補助を行う。 <補助率> 通常車両価格との差額の1/2以内又は車両本体価格の1/4以内(経年車の廃車を伴う新車購入の場合) 通常車両価格との差額の1/3以内又は車両本体価格の1/4以内(新車のみの購入の場合)									
<b>実施方法</b>	補助									
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
		補正予算								
		前年度から繰越し								
		翌年度へ繰越し								
		予備費等								
		計	600	529	481	360	0			
	執行額	433	394	396						
	執行率(%)	72%	74%	82%						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度	
	事業用自動車における新車販売台数に占めるCNG車、ハイブリッド車の台数を、2020年度までに20~30%とする。	事業用自動車における新車販売台数に占める次世代自動車の台数の割合	成果実績	%	-	1	1	-	-	
			目標値	%	-	-	-	-	20	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度	
	事業用自動車保有車両数に占める次世代自動車数を3%とする。	事業用自動車保有車両数に占める次世代自動車数※車種(トラック(大型、中型、小型等)、バス(路線、貸切、コミバス等))毎の平均値	成果実績	%	-	2	2	-	-	
			目標値	%	-	-	-	-	3	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
<b>横断的な施策に係る成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	調整中	1tあたりのCO2削減コスト	成果実績	円	-	-	-	調整中		
			目標値	円	-	-	調整中			
			達成度	%	-	-	調整中			
<b>地球温暖化対策</b>	関係	算出方法	-							

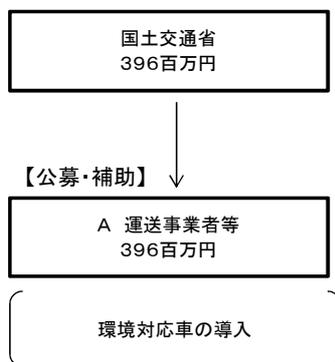
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載

チェック

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	補助台数	活動実績					台	976	1,097
		当初見込み	台	654	774	521			
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	単位当たりコスト 単位当たりコスト=当該年度内車両導入執行額÷当該年度内補助台数	単位当たりコスト					百万円/台	0.4	0.4
		計算式	/	433/976	394/1097	396/1088	360/1175		
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	低公害車普及促進対策費補助金	360							
	計	360	0						
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	II 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現							
	施策	5 快適な道路環境等を創造する							
	測定指標	定量的指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		-	実績値	%	-	-	-	-	-
		-	目標値	%	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	環境対応車の普及促進は、温暖化効果ガスであるCO2、大気汚染物質であるNOX、PMの排出削減に効果的であり、良好な道路環境、生活環境、自然環境の形成に寄与するほか、地域資源を活用した観光誘致効果も期待できることから、施策目標である「快適な道路環境を創造」を達成するため必要である。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)	単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
		-	成果実績						
-		目標値							
-		達成度	%						
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)	単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
	-	成果実績							
	-	目標値							
	-	達成度	%						
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	環境対応車の普及は、地球温暖化対策、大気環境の保全に資する取組である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	地球温暖化対策、大気環境の保全に資する事業は、国が実施すべき事業である。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	本事業を通じて環境対応車の更なる普及が期待できる。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-			
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無			
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無			
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	補助対象事業者にも経費の一部(補助額を除いた残額)を負担させており、妥当な負担関係にある。		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	妥当である。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業の目的に即した対象事業者に交付を行っている。		
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-				
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	環境対応車の開発状況を見極めつつ、導入効果が高いと考えられる車両に重点化した補助を実施していく。			
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	本事業の補助対象である事業用自動車における環境対応車の普及状況を踏まえた目標及び実績となっている。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	補助事業実施にあたっては、直接、間接という手段があるが、当事業は直接補助であるため、間接に比べ事業費分低コストで実施できている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	見合ったものとなっている。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	活用されている。		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
点検・改善結果	点検結果	日本再興戦略、交通政策基本計画及び地球温暖化対策計画に掲げられた施策であり、その推進のため普及の段階に応じたより適切な事業の執行が求められており、予算の弾力的な執行及び補助率の変更について検証が必要である。				
	改善の方向性	予算の統合も含めた、より効率的な事業運営を検討し、また、補助実績を踏まえた効果的な運用を行っていく。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
【平成26年度秋の行政事業レビューにおける指摘事項】 より一層事業の効果・効率を向上させるため、成果の検証が可能な成果指標をそれぞれ設定すべきである。 【対応状況】 ●定量的な成果目標の策定に当たっては、日本再興戦略の目標値の元となっている次世代自動車戦略2010の2020年度時点の新車販売台数に占める割合の目標値から、各事業の対象となる自動車の目標値に相当する値を抽出し、事業用自動車についても同様の割合を達成することの目標(長期の目標)及び短期の目標をそれぞれ設定した。 ●このほか、一般車両との比較競争性(排ガス・燃費性能、車両価格)を定性的な成果指標として設定した。						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	299	平成23年度	276	平成24年度	285	
平成25年度	36	平成26年度	34	平成27年度	34	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A.一般財団法人環境優良車普及機構			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
購入費	車両導入	180			
計		180	計		0
C.			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
E.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
G.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック



平成28年度行政事業レビューシート ( 国土交通省 )

<b>事業名</b>	地域交通のグリーン化を通じた電気自動車の加速的普及促進			<b>担当部局庁</b>	自動車局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	平成23年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	環境政策課		課長 西本 俊幸		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	日本再興戦略(平成28年6月2日閣議決定) 交通政策基本計画(平成27年2月13日閣議決定) 地球温暖化対策計画(平成28年5月13日閣議決定)				
<b>主要政策・施策</b>	観光立国、地球温暖化対策			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	地球温暖化対策、大都市地域等における大気汚染対策等の観点から、トラック・バス・タクシー事業者を中心に、電気自動車等(電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車)の導入に対する支援を行うことにより、環境対応車の普及を促進する。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	他の地域や事業者による電気自動車の集中的導入を誘発・促進するような地域・事業者間連携等による先駆的な取り組みを行う事業者等に対し、電気自動車等の導入に要する経費の一部を補助する。 <補助率> 車両本体価格の1/2(バス) 車両本体価格の1/3(タクシー・トラック) 車両本体価格の1/2(燃料電池車)								
<b>実施方法</b>	補助								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	200	200	-	-			
		前年度から繰越し	1,540	200	200	-			
		翌年度へ繰越し	▲200	▲200	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	1,811	511	499	417	0		
	執行額	384	364	147	-				
執行率(%)	21%	71%	29%	-					
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度
	事業用自動車における新車販売台数に占める電気自動車等の台数を、2020年度までに15~21%とする。	事業用自動車における新車販売台数に占める次世代自動車の台数の割合	成果実績	%	-	0.2	0.1	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	15
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度
	事業用自動車の同一カテゴリに開発メーカーが2社以上参入し、かつベース車との価格差が1.5倍以内とする。	事業ニーズに対応した車種ラインナップ(事業用自動車の同一カテゴリに開発メーカーが参入した社数) ※車種(トラック(大型、中型、小型等)、バス(路線、貸切、コミバス等)、タクシー(一般、バン、FC等))毎の平均値	成果実績	社	-	1.3	2	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	2
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度
	事業用自動車の同一カテゴリに開発メーカーが2社以上参入し、かつベース車との価格差が1.5倍以内とする。	価格低減状況の目標値(ベース車との価格差) ※車種(トラック(大型、中型、小型等)、バス(路線、貸切、コミバス等)、タクシー(一般、バン、FC等))毎の平均値	成果実績	倍	-	3	3	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	1.5
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>横断的な施策に係る成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	調整中	1tあたりのCO2削減コスト	成果実績	円	-	-	-	-	-
			目標値	円	-	-	-	-	調整中
達成度			%	-	-	-	-	-	
<b>地球温暖化対策</b>	関係	算出方法	調整中						
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	補助台数	活動実績	台	112	165	57	
		当初見込み	台	98	83	99	83
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	単位当たりコスト＝当該年度内車両導入執行額÷当該年度内補助台数	単位当たりコスト	百万円/台	3.4	2.2	2.6	3.5
		計算式	/		384/112	364/165	147/57

平成28・29年度予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	0.3					
	職員旅費	0.7					
	委員等旅費	0.5					
	道路環境等対策調査費	11					
	低公害車普及促進対策費補助金	405					
	計	417.5	0				

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	II 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現							
	施策	5 快適な道路環境等を創造する							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		-	実績値	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	電気自動車の普及促進は、温暖化効果ガスであるCO2、大気汚染物質であるNOX、PMの排出削減に効果的であり、良好な道路環境、生活環境、自然環境の形成に寄与するほか、地域資源を活用した観光誘致効果も期待できることから、施策目標である「快適な道路環境を創造」を達成するため必要である。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		-	成果実績						
目標値									
達成度			%						
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	-	成果実績							
		目標値							
		達成度	%						
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	電気自動車の普及は地域交通分野の低公害化等に資する取組である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	地球温暖化対策、大気環境の保全に資する事業は、国が実施すべき事業である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	本事業を通じて成功事例の創出や国民理解の醸成を図ることにより、電気自動車の更なる普及が期待できる。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-		
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	補助対象事業者にも経費の一部(補助額を除いた残額)を負担させており、妥当な負担関係にある。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	妥当である。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-		
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	外部有識者により評価を行った上で、他の地域や事業者による導入を誘発・促進するような先駆的取組を行う事業者等に交付を行っている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	本事業の補助対象である事業用自動車における電気自動車の普及状況を踏まえた目標及び実績となっている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	補助事業実施にあたっては、直接、間接という手段があるが、当事業は直接補助であるため、間接に比べ事業費分低コストで実施できている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	見合ったものとなっている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	活用されている。	
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				
関連事業	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	経済産業省製造産業局		クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金		
点検・改善結果	点検結果	日本再興戦略、交通政策基本計画及び地球温暖化対策計画に掲げられた施策であり、その推進のため普及の段階に応じたより適切な事業の執行が求められており、予算の弾力的な執行及び補助率の変更について検証が必要である。			
	改善の方向性	予算の統合も含めた、より効率的な事業運営を検討し、また、補助実績を踏まえた効果的な運用を行っていく。			
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
備考					
【平成26年度秋の行政事業レビューにおける指摘事項】 より一層事業の効果・効率を向上させるため、成果の検証が可能な成果指標をそれぞれ設定すべきである。 【対応状況】 ●定量的な成果目標の策定に当たっては、日本再興戦略の目標値の元となっている次世代自動車戦略2010の2020年度時点の新車販売台数に占める割合の目標値から、各事業の対象となる自動車の目標値に相当する値を抽出し、事業用自動車についても同様の割合を達成することの目標(長期の目標)及び短期の目標をそれぞれ設定した。 ●このほか、地域の導入状況を定性的な成果指標として設定した。					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	285
平成25年度	36	平成26年度	34	平成27年度	35

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省  
147百万円

【公募・補助】 ↓

A 運送事業者等  
147百万円

〔 電気自動車の導入等 〕

諸謝金  
0百万円

委員等旅費  
0百万円

職員旅費  
0百万円

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

A.総合観光株式会社			B.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
購入費	車両等導入	34			
計		34	計		0
C.			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
E.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
G.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

